

1年8か月前の日本の最大の危機は、余りにも長く続いたデフレ不況によって、景気回復への自信を失って居りました。人はいったん自信を失うと心機一転して自信を取り戻すには大変困難であります。安倍政権によってかなり自信と意欲を取り戻すことができました。

先日のエコノミストにも取り上げられて、現在進めている日本の経済政策はうまく行かろうと異例な紹介をされておりました。日本は確かに人口が減り、高齢化が進んでおりますが、人材に恵まれており、企業群も極めて優秀であります。日本が進むべき道は、経済を成長させ、財政を健全化する事です。経済の成長は人材を育て、国の平和安全を守り、社会保障を維持して行くためには、健全な税収が必要であり、税収を生むものは経済であるからであります。安全保障にこだわるのは国の平和、主権を守る事が経済発展の大前提だからであります。

アベノミクスの第1の矢である、徹底した金融緩和政策は、日本の伝統的なマクロ経済界ではデフレ脱却はありえないと言う説が大勢を占めておりましたが、見事成功し、国際社会で日本は発言できる地位の国となりました。

消費税は急速に伸びて行く、社会保障に国民全体が協力して負担しなければならない責任義務であります。老後の社会補償がはっきりと約束されれば必ず消費は伸びるものであります。北欧の国々は、消費税25%以上であり、消費力も生活も極めて豊かであります。しっかりと老後が保障されているからであります。

しかし小規模事業者、地方産業への波及は、これからの最大の課題であります。小規模事業者、地方産業が日本経済の屋台骨であります。

日本の底力である事は、日本の長い歴史が証明いたしております。中小規模事業者も農業者も一体となって消費者にもっと喜んでもらえる国内外に農水産商品のブランド化を図り、付加価値を高めて、自らの発想で生き残りを賭け、新しい攻めの小規模業、農業に転じなければなりません。アベノミクス第2の矢は人口1億人を切らないようにすることです。そのためには家庭や地域の絆をもっと回復させ、昔の様な町内会、商店会を再生して地域がごぞって区別なく他人の子も自分の子も老人も守って行く社会を取り戻すことが必要であります。核家族ではだめです。

北陸各県の大家族主義を学ぶべきであります。今後の女性たちの働きは社会にダイバーシティを生み「女性の輝く社会を」大いに期待するところであります。一昨年以来で安倍総理は47カ国を歴訪し、世界もまた日本人が進み始めた新しい経済対策に注目し、大きな期待をしております。インド大統領の訪問もその証明の一つであります。2020年には東京オリンピックが開催されます。6年後には何を皆さん目標にしておりますか？私達の夢と希望・・・誇りと豊かさを取り戻すことができるのは他の誰でもありません。私達自身であります。

地方までは及ばないけれど、この1年8か月、確実に株価を上げ、円安を導き、雇用を増大、ベースアップへと成果を上げ始めています。

気を引き締め、あきらめず！この道しかない！！頑張れば報われる、信じて歩みを進めて行きたいと安倍総理は述べております。(改造内閣「安倍首相の今後の方針の要旨」を文芸春秋を参照してまとめました。)